

2021年度 第1回6月名大本番レベル模試 地理 採点基準

1 単答記述問題

誤字，脱字，漢字間違いは0点。

2 論述問題

- ① 「設問別加点基準」に基づき加点する。また，その他各問題の主旨に適した解答にも適宜加点する。ただし，満点を超える得点は与えない。
- ② 以下の「共通減点基準」に基づき減点する。

3 共通減点基準

- ① 加点要素における誤字・脱字および漢字の間違いは1点減点。
- ② 下線の付け忘れは1問につき1点減点。
- ③ 指定用語不使用は，指定用語1つにつき1点減点。
(解答中のどこかで使用していればよい。
加点ポイントの脱落による減点がある場合は，それ以上の減点は不要。)
- ④ 字数オーバーは1点減点。

*減点しなくていい要素，その他の注意

- ① 地理用語に関して，漢字の新字体／旧字体や，スロヴェニア⇔スロベニア，パキスタン⇔パーキスタンといったカタカナ表記の通念の範囲内での異体に関しては減点はしない。
- ② 加点要素以外で誤った記述があった場合，その部分は0点だが，減点はしない。
- ③ 加点項目は内容的に整合性が取れていればよく，字句の順序や表現は必ずしも完全に一致していなくてもよい。
- ④ 文章が未完のものも減点しない。

4 採点記号について

- 1. <□□□□> 加点ポイント
- 2. □□□□× 事実に誤認あり
- 3. □□✓□□ 誤字あり／脱字あり

5 設問別加点基準

- 1) _____ 部分は必須キーワードであり、この表現がなければ当該加点ポイントにおける加点はしない。その他は同義であれば加点する。
- 2) ○○／△△ は「○○でも△△でも可」を意味する。
- 3) 「② (①の説明として)」は、加点ポイント①を正解していなくても、加点ポイント②に該当すれば加点する。
- 4) 「 A 」が「 B 」→1 点 は、「 A 」と「 B 」の両方の要素があれば 1 点加点する。

問題 I

問 1 4 点

緯線の間隔が、アは等間隔、イは高緯度ほど狭く、ウは低緯度ほど狭い。経緯線で囲まれた面積は高緯度ほど小さくなるので正積図はイである。

【加点ポイント】

- ① (正積図は) イ →2 点
- ② (①の理由) 緯線の間隔がイは高緯度ほど狭い／緯線の間隔がイは低緯度ほど広い
／高緯度ほど経緯線で囲まれた面積は小さくなる
／低緯度ほど経緯線で囲まれた面積は大きくなる →2 点

問 4 10 点

C の半島の東側に走る海溝に沿って、海洋プレートが大陸プレートの下に沈み込む狭まる境界があるので、C の半島では地震が起きやすく、火山活動も活発である。また、寒冷地域であるため雪崩・融雪洪水や、火山噴火時の融雪泥流などの被害を受けやすい。

【加点ポイント】

- ① (プレート境界の特徴) 狭まる境界 →2 点
- ② (①の説明) 海洋プレートが大陸プレートの下に沈み込む
／太平洋プレートが北アメリカプレートの下に沈み込む →2 点
- ③ (自然災害)・地震 →2 点
 - ・火山噴火／噴火による噴石 (火砕流／溶岩流／火山灰／火山ガス) →2 点
 - ・雪崩／融雪洪水／融雪泥流／氷河融解による泥流 →2 点

問 5 10 点

図 4 のウは図 1 の a で、マレー半島東岸に位置する。マレー半島は季節風地帯で、一般には夏季は南西季節風で雨季、冬は北東季節風で乾季となる。ところが a は冬の北東季節風の風上に水蒸気が豊富な南シナ海がある位置のため、冬季に降水量が多くなる。

【加点ポイント】

- ① この場所は、季節風／モンスーン の影響を受ける →3 点 } (※「冬に北東季節風が吹く」
② (11~12 月の風向き) 北東 →2 点 } →5 点)
③ (11~12 月に降水量が多くなる理由) 風上に海がある／①が海上を通過して吹く →3 点
④ (③により) ①が水蒸気を多く含む／南シナ海は水蒸気量が豊富 →2 点

問 6 10 点

B の半島の北側の海域はバレンツ海で、暖流の北大西洋海流が流れているので高緯度のわりに冬季も温暖で、北極圏なのに不凍港がある。C の半島の西側の海域は縁海のオホーツク海で、アムール川の流入で塩分濃度が低いため、北極圏ではないのに海氷が発生しやすい。

【加点ポイント】

- ① (B について) バレンツ海 →1 点
② (B の冬季の海洋環境) 不凍港がある／高緯度でも凍らない →2 点
③ (②の要因) 暖流が流れる →1 点
④ (③の海流の名称) 北大西洋海流 →1 点
⑤ (C について) オホーツク海 →1 点
⑥ (C の冬季の海洋環境) 海氷が発生しやすい／流氷が見られる／結氷する／凍る →2 点
⑦ (⑥の要因) 川の水の流入で海水の塩分濃度が低い →1 点
⑧ (⑦の川の名称) アムール川 →1 点

問題 II

問 1(1) B : 石灰石／石灰岩／石灰 →2 点

問 1(2) 4 点

鉄鋼業は製品化で軽くなる原料を用いるため、原料産地に立地して総輸送費を抑えるが、かつての技術では鉄鉱石よりもはるかに多くの石炭を使用していたため、炭田近くに立地した。

【加点ポイント】

- ① (鉄鋼業の特徴) 製品化で軽くなる原料を用いる／原料より製品の重量が軽い
／重量減損原料である →2 点
② (炭田近くに立地するメリット) 輸送費が安くなる →1 点
② (炭田近くに立地した理由) 鉄鉱石よりも多くの石炭を使用していた
／鉄鉱石の約 2 倍の重量の石炭が必要であった →1 点

問 1(3) 4 点

2000 年代に入り，WTO への加盟などにより，外国企業の進出が増加し，中国では工業が急速に発展したため，国内の工業用，建設用などの鋼材需要が急増し，鉄鋼生産が急速に伸びた。

【加点ポイント】

- ① 国内の鉄鋼需要の増加 →1 点
 - ② (①の背景) 国内の経済発展／国内の工業化の進展 →1 点
 - ③ (①②の背景など)・外国企業の進出が増加
 - ・WTO への加盟
 - ・輸出量の増加／安価で国際競争力を持つ
- } 1 つ 1 点 2 点まで

問 1(4) 6 点

日本の鉄鋼生産は，1980 年頃より韓国や中国などの新興国との国際競争が激化したことから，普通鋼の生産は徐々に減少している。だが一方，日本は高い技術力を生かし，付加価値の高い特殊鋼では生産を伸ばしている。

【加点ポイント】

- ① (鉄鋼生産の変化) 普通鋼の生産は減少している →1 点
- ② (①の背景) 新興国 (韓国・中国・インドなど) との国際競争が激化
／日本の普通鋼は高価格である →2 点
- ③ (鉄鋼生産の変化) 特殊鋼は生産が増えている →1 点
- ④ (③の背景) 日本は技術力が高い／特殊鋼は付加価値が高い →2 点

問 2(1)② 4 点

オーストラリアはアルミニウム原料であるボーキサイト，および発電エネルギーとなる石炭の産出に恵まれるが，国内市場が小さいことや近年の資源価格高騰により，ボーキサイトは国内のアルミニウム精錬業よりも鉱石としての輸出に回される。

【加点ポイント】

- ① (オーストラリアは) 原料のボーキサイトを産出する →1 点
- ② (オーストラリアは) 発電エネルギーとなる石炭を産出する
／石炭による火力発電が安価でできる →1 点
- ③ (アルミニウムの) 国内市場が小さい／国内需要が少ない →1 点
- ④ ボーキサイトのままの輸出が多い →1 点

問 2(2) 6 点

【指定語句】 石油危機 国際競争力 リサイクル 3 つ全て 下線付きで使用

(※下線の付け忘れは 1 点減点)

1970 年代の石油危機による原油価格の高騰は電力コストを上昇させ、日本のアルミニウム工業は国際競争力を失い、1980 年代以降、電力を多く消費する新地金の生産は大きく減少した。一方、再生地金は、アルミニウムをリサイクルして生産し、電力消費も非常に少なく、生産が盛んである。

【加点ポイント】

- ① 新地金の生産は大きく減少した／新地金の生産はほぼ無くなった →1 点
- ② (①の理由) 日本のアルミニウムは国際競争力を失った →1 点
- ③ (②の背景) 「石油危機」による「原油価格の高騰」 →1 点
- ④ (③により) 電力コストが上昇／大量の電力な新地金の生産は高コスト →1 点
- ⑤ 再生地金は生産が盛ん／再生地金の生産量が伸びている →1 点
- ⑥ (⑤の背景) アルミニウムのリサイクルが進んだ
／リサイクルによる生産は電力消費が少ない →1 点

問 3(1) 4 点

A のインドネシアでは、自国資源の保全および国内の精錬業の育成のため、ニッケル鉱の輸出禁止政策を打ち出したため。

【加点ポイント】

- ① (A の国名) インドネシア →1 点
- ② (産出量減少の理由) ニッケル鉱の輸出禁止政策 →2 点
- ③ (②の理由) 自国資源の保全／資源枯渇を忌避
／国内の精錬業の育成／精錬による高付加価値化の狙い →1 点

問 3(2) 6 点

携帯電話などの小型家電は、法律でリサイクルが定められていないうえ、電気・電子機器廃棄物が資源であるという意識が社会に浸透していないため、廃棄物の回収が進まない。また、リサイクル事業者自体もコストが高いため、事業の採算が取れない。

【加点ポイント】

- ① (都市鉱山の内容として) 電気・電子機器廃棄物を資源とする
／携帯電話などからレアメタルを回収する →2 点
- ② (①の課題) 廃棄物の回収が進まない／廃棄物がゴミとして捨てられる →2 点
- ③ (②の背景) ・法律でリサイクルが定められていない
・電気・電子機器廃棄物が資源であるという意識が社会に浸透していない
・リサイクル事業の採算が取れない }
→1 つ 1 点 2 点まで

問題Ⅲ

問1(2) 8点

買い物客の主な移動手段が鉄道から自動車に変わり、幹線道路沿いに広い駐車場を持つ大型の商業施設が増えた。一方、駅周辺の商店街は多くが衰退したが、古くなった街並みを観光資源として活用し、集客に成功した商店街も見られる。

【加点ポイント】(※問1(1)の可否は問わない)

- ① (新しい商業施設として) 大型の商業施設／大型スーパー／ショッピングセンター
／ホームセンター／アウトレットモール など →2点
- ② (①の立地場所) 幹線道路沿い／ロードサイド／郊外 →1点
- ③ (①の立地の特徴) 広い駐車場を持つ →1点
- ④ (衰退した商業施設として) 駅周辺の商店街／駅前の百貨店 →2点
- ⑤ (④の観光客誘致の成功事例) 古い町並みを観光資源とした／保存修復型の再開発
／豊後高田市の「昭和の町」など →2点

問2 12点

日本は、ペルシア湾周辺で産出する原油への依存度が高いが、輸入時に周辺諸国の政情が不安定なホルムズ海峡や海賊の多いマラッカ海峡を通過するため、エネルギーの安定供給に不安がある。しかし、パナマ運河の拡張により、シェールガスやシェールオイルが増産したアメリカ合衆国からそれらを大量輸入するようになると、その不安が軽減する。

【加点ポイント】

- ① (日本の原油輸入の現状) ペルシア湾周辺で産出する原油への依存度が高い
／中東の原油への依存率が高い →2点
- ② (①の課題) ホルムズ海峡は周辺諸国の政情が不安定 →2点
- ③ (①の課題) マラッカ海峡は海賊が多い →2点
- ④ (パナマ運河拡張の影響) アメリカ合衆国からの原油(エネルギー)の輸入が増える →2点
- ⑤ (④の背景) アメリカ合衆国でのシェールオイル(やシェールガス)の増産
／アメリカ合衆国でのシェール革命による原油(や天然ガス)の増産 →2点
- ⑥ (④の好影響) エネルギーの安定供給／エネルギー輸入先の分散
／中東(特定の地域)への原油依存率の低下 →2点

問 3(2) 10 点

日本からの国外旅行の大半は航空機を利用するが、ドイツは陸続きの外国が多く、自動車や鉄道でも国境を越えられる。よって、人々が国外旅行に出かけやすい。また、ドイツは連続した有給休暇を日本よりも取得しやすく、温暖な南ヨーロッパのリゾート地に長期間滞在する旅行者が多い。

【加点ポイント】(★問 3(1)の「B：日本」「D：ドイツ」を正解していることを加点の前提とする)

- ① (国外旅行の交通機関) 日本 (B) は航空機を利用する →2 点
- ② (国外旅行の交通機関) ドイツ (D) は自動車や鉄道も利用できる →2 点
- ③ (①②の理由) 日本は島国である／ドイツは外国と陸続きである →2 点
- ④ (労働環境) ドイツは有給休暇を日本より取得しやすい
／ドイツは有給休暇の消化率が高い／日本は有給休暇の消化率が低い
／ドイツは休暇という文化を社会が受け入れている
／日本は長期の休暇が取りづらい／ドイツは長期の休暇が取りやすい →2 点
- ⑤ (その他) ドイツは温暖なリゾート地に長期間滞在する慣習がある
／EUではシェンゲン協定によりEU域内を自由に(国境審査なしで)移動できる
→2 点

問 3(3) 4 点

近年、中国は、目覚ましい経済成長により所得水準が急上昇した。そのため、国外旅行者が急増し、国際観光収支は大幅なマイナスである。

【加点ポイント】

- ① (中国の国際観光収支) マイナスである →2 点
- ② (①の理由) 国外旅行者が急増している
／日本などへ買い物を中心に訪れる旅行者が多い →1 点
- ③ (②の背景) 急速な経済成長／所得水準の向上／富裕層が増加 →1 点

問題IV

問 1

- | | |
|---------------------------|-----------------------|
| K : 南緯 10° / 南緯 10 度 →2 点 | } いずれも「南緯」が無ければ× →0 点 |
| L : 南緯 40° / 南緯 10 度 →2 点 | |

問 3 計画名：スノーウィーマウンテンズ計画／スノーウィーマウンテンズ計画 →2 点

※スノーウィーマウンテンズ計画 →△1 点

問 3 説明 10 点

【指定語句】

ダム	トンネル	灌漑
----	------	----

 3 つ全て 下線付きで使用

(※下線の付け忘れは 1 点減点)

山脈東部の河川水をダムでせき止め、トンネルで山脈西部へと導くことにより灌漑が行われたため、安定的に小麦が栽培されるようになった。

【加点ポイント】

- ① (山脈の) 東側の河川 (スノーウィー川) にダムを設置した →3 点 (※「東」の欠落 →2 点)
- ② (①の水を) トンネルで西側の河川 (マリー川) に導いた →3 点 (※「西」の欠落 →2 点)
- ③ (①②により) 灌漑が可能となった →2 点
- ④ (③による農作物) 小麦 →2 点

問 4 8 点

新期造山帯で、また火山国であるため、高低差のある地形を生かした水力発電や、マグマの熱を利用した地熱発電が盛んである。

【加点ポイント】

- ① 水力発電が盛ん／水力発電が電力の半分以上を賄う →2 点
- ② (①の理由) 新期造山帯で高低差がある地形である
／偏西風が脊梁山脈にぶつかり年中降水量が多い →2 点
- ③ 地熱発電も盛ん／地熱発電が 3 番目に多い →2 点
- ④ (③の理由) 火山のマグマの熱を利用／火山近くの熱水を利用／温泉熱を利用 →2 点
(※「火山国である」のみ →1 点)

問 5 10 点

イギリス植民地時代、サトウキビのプランテーション農園における労働力として流入した移民の子孫であるインド系住民が多いため。

【加点ポイント】

- ① (ヒンディー語とヒンドゥー教徒が多い理由) インド系住民が多い
／インド系移民の子孫が多い →2 点
- ② (①の背景) イギリスの植民地であった／宗主国がイギリスであった →2 点
- ③ (①の背景) インドから労働力として流入した →2 点
- ④ (③の用途) 農園／プランテーション →2 点
- ⑤ (④の作物) サトウキビ →2 点